

## APEC 女性と経済フォーラム「ハイレベル政策対話」

### 林文子横浜市長 基調講演

2015年9月18日 フィリピン・マニラ

皆様おはようございます。横浜市長の林文子でございます。本日この場で基調講演を行う機会をいただき、大変光栄です。議長のノラ・テラド氏をはじめ関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

私は、APEC 首脳会議が横浜で開催された2010年から、APECにおける「女性と経済」に関する議論に参画し続けています。この間、日本における「女性活躍」のムーブメントは、急速に拡大してきました。

安倍首相のイニシアチヴのもと、国の成長戦略において初めて、「女性の活躍推進」が、大きな柱に位置付けられました。官民を挙げた動きは大きく加速しています。今年8月には、昨年につき、「女性版ダボス会議」ともいうべき「WAW! Tokyo 2015」が開催され、世界の女性リーダーが活発な議論を交わしました。

私自身、371万人の人口を擁する日本最大の市の長として、横浜を「日本一女性が働きやすい、働きがいのある」都市にするため、力を尽くしています。

特に、女性の社会進出を妨げる最大の障壁、「保育サービスの脆弱性」にいち早く着目し、改善を推し進めてきました。保育所を増設、住民ニーズとの徹底的なマッチングなど、ありとあらゆる手を尽くし、「待機児童ゼロ」を実現しました。この取組は日本中の都市へ波及し、国をも動かしています。

更には、女性による起業、働く女性のネットワーキングなど、多岐にわたる支援策を、まさに市民生活と地域経済の最前線で展開しています。

女性ならではの視点、そして共感が、組織や地域社会を豊かにすることを、ここにいる全ての方が実感しておられるはずです。

私は現在、日本の20の大都市の市長が構成する「指定都市市長会」で会長を務めています。昨年春、私は初の女性会長に就任し、リーダーたちと対話を重ね、コミュニケーションの活性化に心を砕いてきました。相手の懐に飛び込み、心を解きほぐす。女性としての特性が、会を建設的な議論の場に変えたと自負しています。

いまや日本における取組は、「女性の活躍」のみならず、社会の根底にある大きな課題、「長時間労働」の改善にシフトしてきています。

「家事・育児・介護は女性が担い、男性は長時間労働に従事する」という意識は、長く女性の社会進出を妨げてきましたが、いまや女性のみならず男性も、これまでの働き方を変えようと、行動を始めています。

更に、女性の社会進出と矛盾する、税・社会保障制度の変革に向けた検討もスタートしています。

真に女性が活躍できる社会、それは、性別を問わずすべての人が活躍できる社会であるはずです。

2010年の岐阜に続き、米国、ロシア、インドネシア、中国・北京。私は常に、APECでの議論に大きく後押しされてきました。各国における実態と課題、そしてベストプラクティスを共有することで、更なる行動へのエネルギーを得てきました。

今年もここフィリピン・マニラで、実り多い議論が交わされました。「包括的成長の推進役を担うのは女性である」。これはまさに、私たちを突き動かす信念に他なりません。

企業、NPO、そして都市、国家。あらゆる主体が「ローカルに」、そして「グローバルに」進めている取組を、ぜひ、力強いメッセージとして集約し、世界へ発信していきたいと思います。

私たちの「実践」と「対話」こそが、すべてを生み出します。今後も皆様とともに、APECの更なる成長、真に心豊かな未来を実現していく決意です。

ありがとうございました。